

神を欺いてはならない

シリーズ～続 福音の力～

2021/6/6

初代教会の共有生活(4:32-37)

- エルサレムの信者たちは心も物も一つ
 - 「信じた人々の群れは心も思いも一つにし、一人として持ち物を自分のものだと言う者はなく、すべてを共有していた。」(32)
 - 「信者の中には、一人も貧しい人がいなかった。」
- 畑を売ったバルナバ
 - 「レビ族の人で、使徒たちから**バルナバ**と呼ばれていた、キプロス島生まれのヨセフも、持っていた畑を売り、その代金を持って来て使徒たちの足もとに置いた。」(36-37)

使徒言行録 5章1～11節

ところが、アナニアという男は、妻のサフィラと相談して土地を売り、妻も承知のうえで、代金をごまかし、その一部を持って来て使徒たちの足もとに置いた。すると、ペトロは言った。「アナニア、なぜ、あなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、土地の代金をごまかしたのか。売らないでおけば、あなたのものだったし、また、売っても、その代金は自分の思いどおりになったのではないか。どうして、こんなことをする気になったのか。あなたは人間を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」この言葉を聞くと、アナニアは倒れて息が絶えた。そのことを耳にした人々は皆、非常に恐れた。若者たちが立ち上がって死体を包み、運び出して葬った。

それから三時間ほどたって、アナニアの妻がこの出来事を知らずに入って来た。ペトロは彼女に話しかけた。「あなたたちは、あの土地をこれこれの値段で売ったのか。言いなさい。」彼女は、「はい、その値段です」と言った。ペトロは言った。「二人で示し合わせて、主の霊を試すとは、何としたことか。見なさい。あなたの夫を葬りに行った人たちが、もう入り口まで来ている。今度はあなたを担ぎ出すだろう。」すると、彼女はたちまちペトロの足もとに倒れ、息が絶えた。青年たちは入って来て、彼女の死んでいるのを見ると、運び出し、夫のそばに葬った。教会全体とこれを聞いた人は皆、非常に恐れた。

嘘をついたアナニアとサフィラ

- 土地を売ったアナニア
 - 他の信徒もそのようにしていたが、決して強制ではなかった
- 嘘をついたアナニア
 - 「代金をごまかし、その一部を持って来て使徒たちの足もとに置いた」> **全額であると偽った**
- **なぜ嘘をついたのか？**
 - 手元にお金を残しておきたかった
 - 代金をごまかしてもバレないと思った
 - 信徒たちの賞賛を浴びたかった？

神を欺いたアナニア

- アナニアの嘘を見破ったペトロ
 - 「アナニア、なぜ、あなたはサタンに心を奪われ、**聖霊を欺いて**、土地の代金をごまかしたのか。」
- 嘘などつく必要はなかった
 - 「売らないでおけば、あなたのもものだったし、また、売っても、その代金は自分の思いどおりになったのではないか。」> 全額献金する必要はない
- アナニアが欺いたのは神ご自身であった
 - 「**あなたは人間を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。**」

アナニアへの裁き

- アナニアの死
 - 「この言葉を聞くと、アナニアは倒れて息が絶えた。」
- 妻サフィラへの質問
 - このことを知らずに3時間後に現れた妻サフィラ
 - 「あなたたちは、あの土地をこれこれの値段で売ったのか。言いなさい。」
- 嘘をついたサフィラ
 - 「彼女は、『はい、その値段です』と言った。」
 - 彼女もごまかしてバレないと思った

サフィラへの裁き

- サフィラも神を試した
 - 「二人で示し合わせて、主の霊を試すとは、何としたことか。見なさい。あなたの夫を葬りに行った人たちが、もう入り口まで来ている。今度はあなたを担ぎ出すだろう。」
- サフィラの死
 - 「すると、彼女はたちまちペトロの足もとに倒れ、息が絶えた。」
- 主に対する恐れ
 - 「教会全体とこれを聞いた人は皆、非常に恐れた。」

彼らはどうすべきだったのか？

- 土地を売らなくても良かった
 - 強制されていたわけではない
- 代金の一部を献金してもよかった
 - 全額ささげなければならないわけではない
- 正直に報告すればよかった
 - 代金の全額ではないと言えばよかった
- ペトロに尋ねられたとき修正すればよかった
 - サフィラにはチャンスがあった

なぜ厳しい裁きが下ったのか？

- 背後にある欲と神への不信仰
 - 自分の手元にも金を残しておきたかった
 - 神が支えて下さるという信仰が弱かった
- 人から賞賛されたいという気持ち
 - そこにサタンがつけ込んだ
- **最大の原因は神を欺き、試したから**
 - 誰にも知られていない、と思っていた
 - すべてをご存じである神への畏れが欠けていた

それにしてもしきびしいなあ！

本当の裁きをおそれる

- 聖霊に対する冒涇
 - 「人が犯す罪や冒涇は、どんなものでも赦されるが、“霊”に対する冒涇は赦されない。」マタイ12:31
- 現代も同じような裁きが下されるのか？
 - ないとは言い切れない
- その時に下されなくても、最後の審判の際には、あらゆる罪が裁かれる
 - 「わたしたちは皆、キリストの裁きの座の前に立ち、善であれ悪であれ、めいめい体を住みかとしていたときに行ったことに応じて、報いを受けねばならないからです。」コリント二5:10